

## 第1回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成30年5月13日（日） 10時～12時
- 開催場所 湖北台近隣センター
- 参加者 42名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長  
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職14名

### ■懇談要旨

市 民：議会の録画を直ぐに観たいのですが、1週間後となってしまいます。以前は直ぐ観れたはずですが。サービスの低下ではないでしょうか。

市 長：議会につきましては、別組織ですので、私の方から議会事務局に伝えておきます。

市 民：現在の場所から東に消防署が移転するという事で、行政サービスの低下になるのではないかと考えています。例えば、届出や指導を受けること、さらには、緊急出動もあると思いますが、私は、これまでより、2分程の遅れが発生するのではないかと考えております。

また、訓練を行う際に号令や掛け声、作業音等による近隣への騒音対策はどのように考えているのか。最後に市と住民の協働について、信頼関係をどう進めていくのかお聞きしたい。

市 長：消防署の移転で2分程かかるかもしれないですが、それは現在の消防署より西側に限定したことです。東側の地区では近くなることとなります。配備している救急車には、救急救命士も同時に配置しておりますので、安全が確保できているものと思います。さらに騒音ですが、音の出るような訓練は、夜間は実施しません。現在、西消防署にある狭い訓練場では、訓練時の掛け声や救助訓練などの音が出ておりますが、騒音としてうるさいといった苦情は一切ありません。これは消防の訓練ということで騒音としてではなく、一定の安心感に通じることもあるのかと思います。また、今回の移転につきましては、地域の皆さんとは5年ほど前から意見交

換をさせていただきながら進めてまいりました。湖北地区の安全・安心の拠点としてこれからも微調整をさせていただきながら進めさせていただきます。

市 民：消防署ですが、完成予想図の太陽光パネルですが、10kwのようですが、30kw～50kwもつけられるのではないのでしょうか。

市 長：これは、あくまでも完成予想の図ですから、今後、そういった詳細な部分を精査していくこととなります。もしかしたら、太陽光ではなく、違う自然エネルギーを使うかもしれません。あくまでも、イメージとしてご理解くださいますよう、お願いいたします。ご指摘の部分は、今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

市 民：消防署の建設着工は4年後ですが、建設を行う前提としては、若草幼稚園の移転が前提条件になると思いますが、若草幼稚園が具体的にどこに移転するのか、市のサポートが必要であると思います

また、私は予定地の近所に住んでおりますので、交通量が気になっております。石井踏切から道路へアクセスする車のスピードが速く、消防署の外れの交差点の安全確保はどのように考えているのか。お聞きいたします。

もう1点は、我孫子市でも行っております、緑のカーテンについてですが、ヒートアイランド現象の対策として、市や公共施設で行っているのですから、消防署でも、そういったところは検討されているのか。市民の手本になるようにお示しくださいと思います。それと消防士の皆さんは、市民の生命と財産を守るため、暑い日も訓練を行うことになるので、出来るだけ快適な状況で訓練が出来るよう、配慮していただきたいと思います。木陰で休めるような、そういう場所も設けてあげられれば良いかなと思います。

市 長：移転場所は図面の北側の畑のところになります。若草幼稚園もどのような園庭を考えているのか、それによって形状も変わってきますので、そういった部分も保育課と協議をして、市としてしっかりとアドバイス等をさせていただきます。

また、幼稚園機能をもっている保育園、いわゆる認定子ども園になるのか、現在

のように幼稚園だけになるのかによって、規模が変わってきます。認定こども園になれば、湖北台保育園の人数を減らすことも可能ですので、単なる移転ではなく、湖北台保育園と関連した全体的な保育園、幼稚園の計画に含まれておりますので、しっかりとサポートしていきます。緑につきましても、様々な検討をしたいと思えます。街路樹を植えるなどして、またスピードがでないように、少しカーブをかけるなどして、安全性も確保しつつ、ドライバーの視界を遮らないような緑の植樹を検討してまいります。また、消防職員へのお気遣い、誠にありがとうございます。どんなに暑くても火災現場で倒れる職員では困りますので、体力のある職員を採用していかなければなりません。この点については、体力をつけさせることと、無茶をさせることとは分けて、市民の生命、財産を守る優秀な消防隊、救急隊を育ててまいります。

市 民：消防が移転した後の跡地利用については、どのような予定になっているのかお聞きいたします。2点目は、中央公園周辺の道路にある標識や湖北台団地と6丁目の間の標識ですが、何か所か樹木によって見えない場所があります。樹木の剪定をお願いいたします。また、横断歩道が消えかかっているところもありますので、引き直していただきたい。湖北台だけではないと思えますので、標識については市内全域の公園について確認していただければと思います。3点目は、中央公園は南北に長い公園です。北のはずれの方でイベントなどをした際に、トイレが設置してある場所まで長い距離を歩かなければなりません。ぜひ、中央公園の北側にトイレを設置していただきたい。

建設部長：交通規制に等については、警察になります。ただし、それ以外の標識については市となりますので、後ほど詳細な場所を教えていただきたいと思います。伐採等を行ってまいります。警察の方には、市から連絡をいたします。

都市部長：中央公園のトイレの件につきましては、以前、バリアフリーの補助金を使い、バリアフリー工事を行いました。市内17の公園に33基のトイレがございまして、市民の利便をはかっております。バリアフリー補助金を使いながら、順次工事を行っております、今年度は天王台西公園を予定しております。さらに、今年

度予定しておりました、布佐平和台南公園は、国の補助金が通りませんでしたので、来年以降に引き延ばすこととなってしまいました。そういった財政事情でありますので、ご理解いただきたいと思ひます。

市長：市内の公園のトイレは老朽化が進み、順次、更新工事を行っております。補助金は国の付き方によつてですので、少しずつ改修させていただきます。その代わりですが、湖北台の行政サービスセンターや社会福祉協議会の事務局を利用していただければと思ひます。また、消防の跡地については、湖北台保育園は取り壊して更地にして、URにお返しする方向で、交渉を進めております。わくわく広場は2階建てにすることで、保育園とわくわく広場が入るように進めております。そうしますと、駐車場がなくなつてしまいますので、当面は保育園の先生方やお子様の送迎の為の駐車場、地区社協や行政サービスセンターを利用する方々の駐車場として活用しながら、今後の本格的利用計画を皆様とも相談しながら、進めていきたいと思ひております。ただ、行政サービスセンターや地区社協の建物も老朽化が進んでおりますので、こちらも含めて進めていきたいと思ひます。

市民：我孫子市として、現在、企業誘致を行っているか。また、成田線の複線化について、どのような状況であるのか、期成同盟はまだあるのか、また増便は出来るのかお聞きしたい。

市長：企業誘致については、誘致場所の調査を行い、報告があがってきているところでは、企業側とヒアリングを行っているのですが、企業側が求めているもの一つとしては、大きな道路です。我孫子市では、大きな道路として6号線が1本であり、次に広い道路は、船橋取手線、356号線バイパスしかありません。また、企業用地としての場所は限られてきて、それ以外となると農地となります。農地の中でもやはり田んぼが多いので、田んぼとなると大震災の時に我孫子市は液状化となったことから、企業は液状化のリスクを非常に警戒するようになりました。そういった中で、我孫子市に古くからある工場の周りに住宅が増えてきており、工場も引っ越したいという話も出てきております。従つて、新たな工場の誘致場所の選定と今ある工場の引っ越し先等を見つけていくことが必要と思ひております。ここは、

固定資産税等の税収入が見込めることになるので、しっかりと進めさせていただきます。

成田線につきましては、非常に難しい状況です。成田線の複線化は、もうできないと私は思っております。JRいわく、民間企業であり利益が出ないものに投資はしないとっております。ですから、部分的な複線について増発が出来ないか協議を行っており、湖北駅折り返し、木下駅折り返しということも含めた増発の協議を行っております。ここ5年間で成田線の利用者数が年々減ってきていることから、この乗降者数では厳しいとはっきり言われてしまいます。私が、市長に就任した10年前は、成田線8駅で天王台駅と同じ約2万3千人の乗車数だと言われておりましたが、最近では2万人をきっているとの事です。こういった状況の中で、先ほどお話した、湖北駅、木下駅折り返しによる増発なども含めて協議を行ってまいります。期成同盟は、まだありますが、複線化については修正しようと協議を進めております。複線化は取り下げ、増発をメインに要求していく考えでおります。

市民：成田線を利用している者です。仕事で帰りが遅くなることがあります、柏からタクシーを利用することがあります。天王台駅ではタクシー等がありますが、湖北駅にはその時間タクシーはいません。終電でもタクシーがあるんだということであれば、利用者も増えていくのではないかと考えております。公共交通機関が終電でも利用できるようにしてほしいと思います。

市長：成田線については、JRとよく話をしております。成田線の施設等は千葉支社になります。車両と運転手については、東京支社になりますので、両方と協議をしなければならなくなります。成田線の利用人口が減少してきている中で、我孫子、天王台方面は人口が多いのですが、約13万の人口の中の約5万人は我孫子周辺、4万人が天王台周辺、湖北から新木で約3万人、布佐平和台を含めた布佐で1万人です。成田線を利用していただく通勤者を増やす為にも、市では住宅取得の際の補助金等を出すことによって、少しずつ効果が出てきており、湖北台や新木、布佐の不動産にも動きが出てきております。しかし、多くは天王台近辺に定住されております。

我々としては、成田線沿線に住んでいただく施策を行い、バス便を検討するしかないと思っております。現在、布佐駅から天王台駅まで直行できる便は出来ないか

と交渉しているのですが、356号線は信号も多く、曲がりくねっており道幅も狭いので、それよりは、356号線バイパスを中心にしながら、新しいバス路線を検討した方が良いので、この点を進めさせていただきます。我孫子駅は、タクシーがないという苦情は受けたことはないのですが、我孫子駅、天王台駅の南側は、タクシーはありますので、ご利用ください。

なお、タクシー運転者も高齢になってきましたので、早くあがってしまうこともあるそうですので、そういった部分も協議していきたいと思えます。

タクシー等については、終電までは確保していきたいと思っております。

市 民：今のお話ですが、私は湖北の北口を利用していますが、お電話すればタクシーは来てくれますので、電話をご利用された方が良いと思えます。

次に、今、我孫子市は外国人が多くなってきておりますが、私の願いは交通事故を無くすことです。制限速度を守ると後ろに付かれてしまい、法律を守る人が困ってしまう社会になっています。交通事故の原因は、交通ルールを守らないからです。私達も法律を守っていききたいですね。

市 長：警察とも連携しながら交通ルールを守って、安全な社会を築いていくことが大切です。標識があっても見ていない、守っていないということが、子どもも大人もあります。皆で、交通ルールを守っていきながら、また警察と連携した取り組みを行って安全な街づくりをしていく考えです。我孫子市に住んでいる外国人につきましては、10年前は、1,300人でしたが、今は、1,800人となっております。その中で一番多いのは、中国の方で、二番目はベトナムの方です。その後は韓国人の方となっております。ゴミの分別方法が書かれているカレンダーなどは、それぞれ作成して呼びかけております。我孫子に住んでいる外国人の方の多くは、大学や研究者の方のようです。昨年、福祉部門では長く滞在できるように法改正がありました。2年間の滞在期間が5年間になったということです。介護や老人ホームなどで、我孫子市でも多くの方が働くようになっております。ベトナム語の学校の先生は、彼らはまじめです。しっかり教えれば、ちゃんと対応してくれると言っておりました。彼らは、母国での習慣どおりに生活してしまうので、やはり、日本の我孫子の生活習慣をしっかり教えていくことが必要であります。これについ

ては、我孫子にあります学校からアドバイスをいただき、連携を深めて対応していきたいと思います。

市 民：高齢化率が高くなってきている中で、空き家バンクの設立ということが挙げられておりますが、もう少し、詳細な説明をしていただきたいと思います。それと、他市に比べ、我孫子の人口が減ってきているという深刻な状況について、どのような事が原因となっているのか、教えていただきたい事と、他市と連携して政令都市構想があると聞いたことがありますので、その点につきましても、教えていただきたいと思います。

都市部長：空き家バンクについてですが、空き家を貸したい、売りたいという方に登録をしていただき、市では国の全国版空き家バンクに情報公開いたしまして、借りたい、買いたい方、利用者と所有者の橋渡しをしていくということで、市と市内の宅地取引業者が協力しあっていく事業であります。空き家を登録する方の利用要件といたしましては、我孫子市の自然環境や生活環境を深めていただき、地域の住民と協力し合っていくというようになっております。空き家を所有している方を知っていらっしゃる方は、このような事業がありますとお伝えいただけれる助かります。

市 長：人口減少につきましては、市としましては、平成27年から減少していくと予想しておりましたが、7年前の東日本大震災により、早まってしまいました。要因は、震災の影響で転入者よりも転出者が増えた社会増減によるものです。しかし、4年程前から落ち着いてきたようで、今の要因は、自然減です。6年ほど連続して、我孫子市で生まれた子は、1,000人をきっております。去年は、とうとう800人をきりました。去年、我孫子市で生まれた子供たちは、770人で亡くなられた方が1,270人いたため、500人の人口減となっております。

転入と転出の差では、去年、我孫子市から引っ越していかれた方と我孫子に引っ越してきた方とでは、差し引きプラス300人です。ということで、200人の人口減となりました。このように毎年ジリジリと減少が続いてきております。

他市は人口が増えてきているという点では、柏、流山、印西市などは、旧の土地ではなく、何もなかった土地が、例えばTX等による宅地開発により住宅が建てら

れ人口増となっておりますが、柏でいえば柏駅周辺のみで、旧沼南は我孫子と同じ状況です。新しい宅地開発の沿線が違うということでもあります。印西市等もやはり沿線の開発により地盤が固いということで、企業のコンピュータや情報集積の建物などが設置されております。政令指定都市につきましては、さいたま市が良い例ですが、浦和と大宮が合併し、それと周辺を含めて政令指定都市となりました。千葉に負けたいためにも、精力的に動いていたようです。

千葉県の方向としては、千葉市という政令都市がありますが、県としてはこの東葛北部、いわゆる常磐線沿線は常磐線沿線で総武線は総部線沿線など各沿線で政令指定都市になる度量を持っている市はありますので、どうですかという話はできます。政令指定都市になれば、県との協議ではなく国と話ができますので、県としてはそのような話をします。政令指定都市は法律で50万人以上、現実的には70万人以上で政令指定都市に認められております。そうすると我孫子は13万人ですから、一つの区にはなると思いますが。柏市は2区か3区などに分かれるという構想は出来ます。政令指定都市の良い所は、宝くじを発行することが出来るわけで、売り上げを収入に出来るという利点があります。政令指定都市として、各区が工業区域、商業区域、住宅区域など一つの政令都市の中で上手く循環出来るようであれば、非常に効率の良い経営が出来ると思えます。人口減少により効率の良い都市を目指すという事では、将来的には考えられることかもしれません。

市 民：我孫子市内には、150から200か所ぐらい公園があると思えますけど、公園内で犬や猫の糞が放置されているのが目立ちますが、それだけ、公園内に動物もくるのですから、余り人が利用していない公園などにドッグラン等の施設を造っていただきたい。動物も利用できるすみ分けをした公園としてお願いしたい。むしろ、そういった糞の処理もしていない公園であれば、子どもたちにも影響がでますので、一部動物に開放してもよいのではないのでしょうか。

都市部長：公園でのマナーにつきましては、我孫子市は、日本動物愛玩協会と協賛しまして、動物のしつけ等やマナーを守ってもらう教室を開催しております。ドッグランにつきましては、基本的には1,000㎡ぐらいの土地が必要になり、公園の大部分を占めることとなりますので、愛犬家以外の公園利用者の妨げになると思



ますし、駐車場の設置や管理人を配置するなど経費がかかりますので、設置については、難しい状況です。